

2024年11月30日(土)に国立(くにたち)で開催された「多摩の空襲被災」についての講演学習会のふたつのテーマの内、2)『多摩地区への空襲について』斎藤勉さんの内容を、講演者の配布資料に準じて伝えます。

『地元初公開！ 多摩空襲被災地図』 ～空襲80年を考える～

1) 改訂版『多摩空襲被災地図』お披露目

千地健太さん 東京大空襲・戦災資料センター学芸員

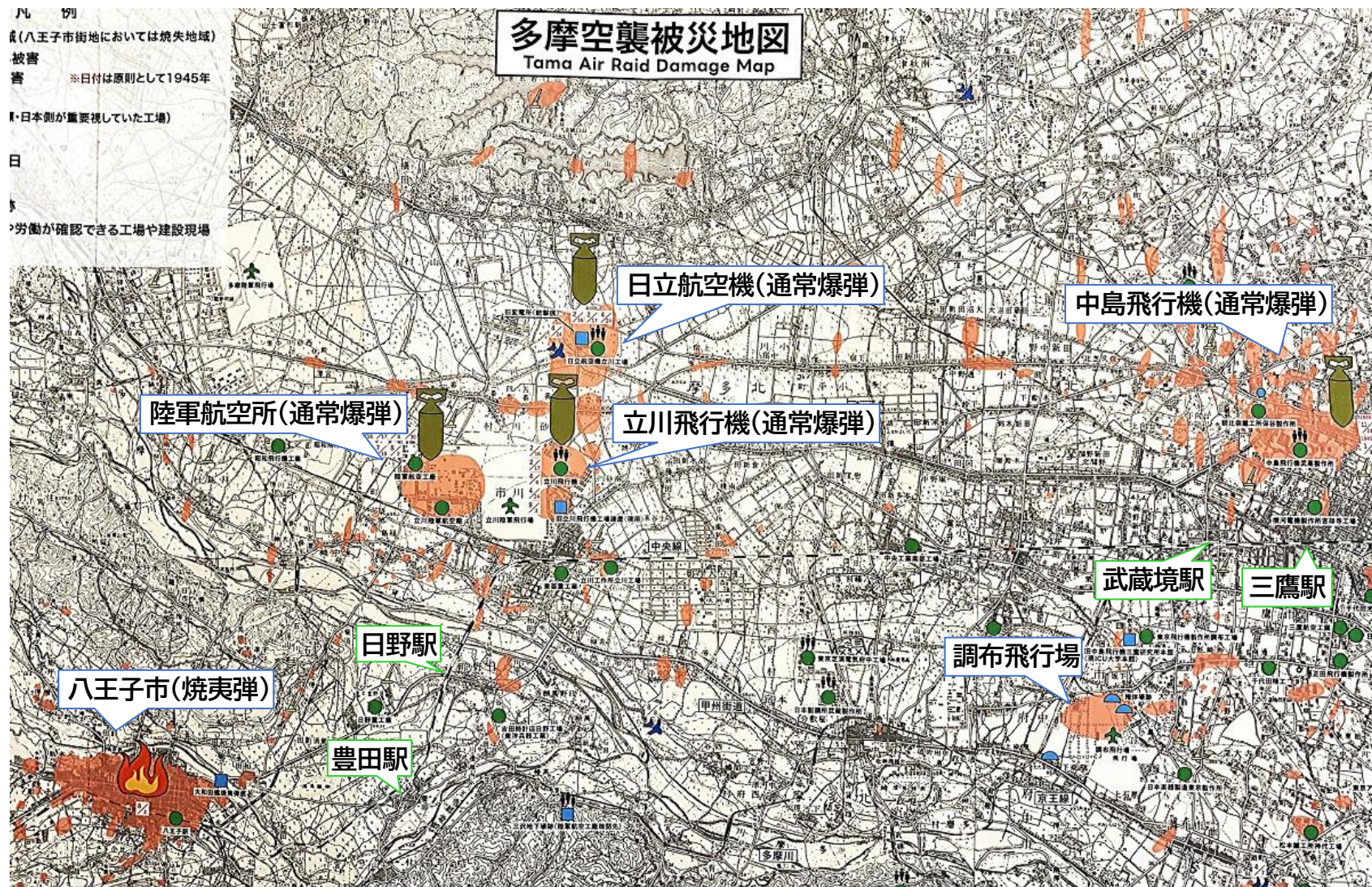
2) 多摩地区への空襲について

齊藤 勉さん 八王子・昭和史の会

主催： 三多摩平和交流ネットワーク(三多摩法律事務所)

後援： 東京大空襲・戦災資料センター

I. 改訂版『多摩空襲被災地図』 東京大空襲・戦災資料センター



2) 多摩地域への空襲について
齊藤 勉さん
八王子・昭和史の会

1. 空襲の始まりから終わりまで

1942年4月18日～1945年8月15日

- ✓ 米軍機の最初の飛来は1942年4月18日のドーリトル空襲。空母ホーネットから発進したB25双発爆撃機が東京などを空襲したのちに中央線に沿って西に飛行。立川手前で南に旋回して本土を離れた。
- ✓ 1944年11月1日と7日にB29が写真撮影のため飛来。7日の飛来で撮影した航空写真で軍需工場、飛行場を把握した。
- ✓ 1944年11月24日にB29が中島飛行機武蔵製作所を初空襲した。本格的な本土空襲だった。多摩地区へは初めての空襲だった。以後、多摩地区は繰り返し空襲を受けた。
- ✓ 1945年2月16日、米海軍の艦載機による空襲が開始された。4月7日、米陸軍の陸軍機P51が初飛来。
- ✓ 1945年8月15日未明の奥多摩町大丹波(おおたば)への焼夷弾の投下が多摩地区最後の空襲だった。

2. 多摩地区に飛来した米軍機の機種と目的、空襲に使われた爆弾、焼夷弾

B25 (ノース・アメリカンB-25 ミッチェル) 6人乗り 16x20x5

1942年4月18日

都内を爆撃後、立川手前で南へ。多摩の空襲はなし。多摩地域では初めての爆撃機の飛来だった。

B29 スーパーフォートレス 30x43x8.5
大型長距離戦略爆撃機 (航空機関士など11人)

1944年11月24日以降

軍需工場と地方中小都市への空襲、爆弾の投下訓練、写真撮影、気象観測、原爆の投下訓練をおこなった。

250キロ爆弾、1トン爆弾、模擬原爆、M50、M47焼夷弾は八王子空襲に使用。M76焼夷弾は通常爆弾とともに中島飛行機武蔵製作所に使用された。

小型機P51

1945年4月7日以降

B29の護衛、飛行場の空襲をおこなった。機銃掃射、ロケット弾を投下した場合もあった。

艦載機

1945年2月16日以降

軍需工場、飛行場への空襲に用いられた。250キロ爆弾、機銃掃射。

3. B29少数機による写真偵察、気象観測

写真偵察による多摩の軍需工場、軍事施設の“発見”

- ✓ 1944年11月1日から空中写真撮影専用のF13型機で日本本土の撮影を始めた。写真から地図を作り、立体視化して「発見」した。
- ✓ 空襲前後にも撮影し、空襲前に目標を分析、リトモザイクと呼ばれる航空写真地図（正確な名称は「爆撃中心点参照用集成図」）を作成、空襲後は爆撃の効果を検証し、作戦任務報告書を作成した。
- ※ 捕虜の尋問、捕獲資料の検討・翻訳による目標情報の収集も合わせておこなっていた。

気象観測による天気図の作成

- ✓ 日本上空の天候調査を行い天気図を作成した。（天候調査は小型機の墜落を避けるため。1945年6月にP51が梅雨前線に突っ込んで十数機が落ちたことがあったため。）

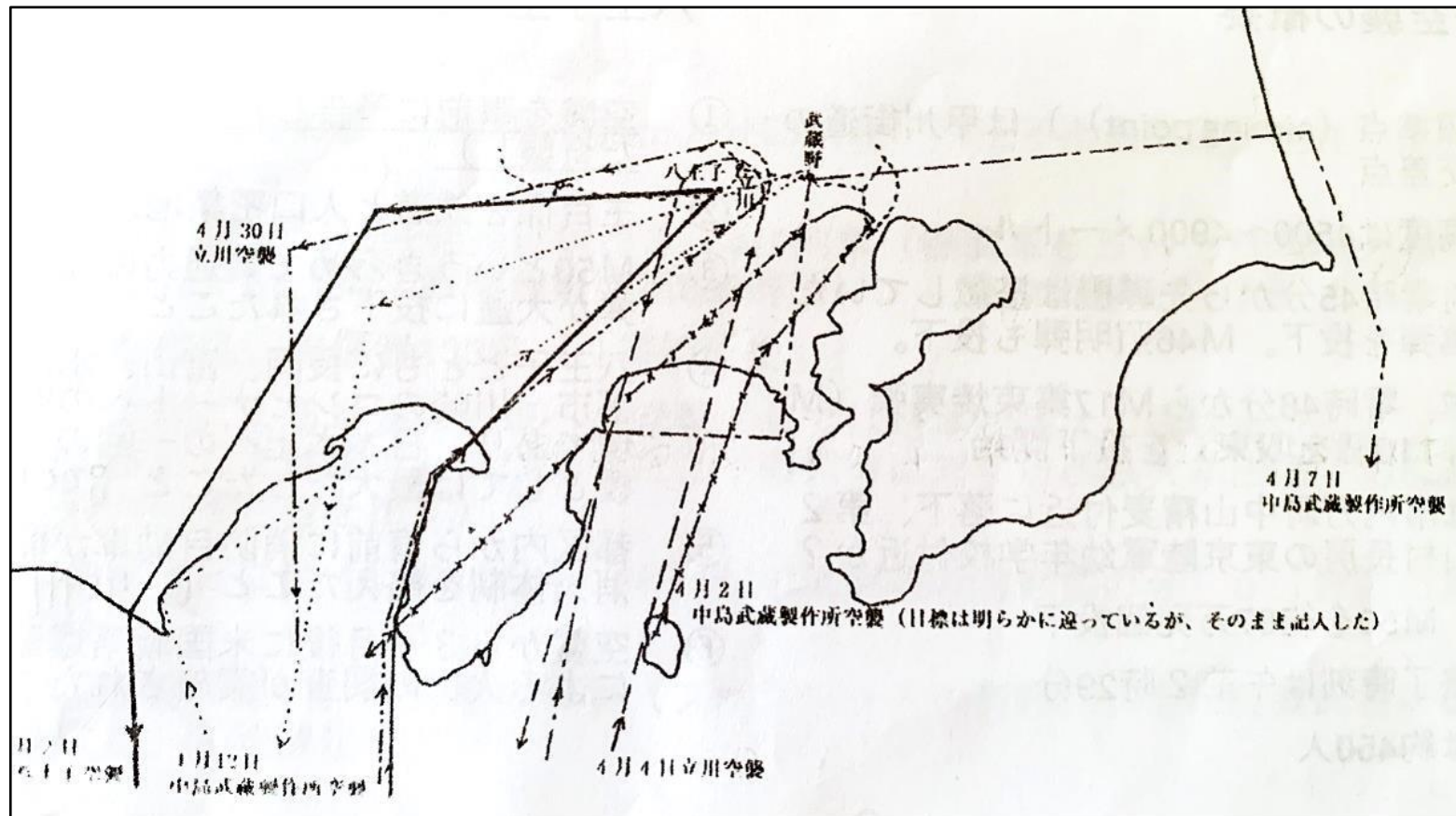
4. B29による多摩の軍需工場への空襲

中島飛行機武蔵製作所の空襲は計9回

1944/11/24	中島飛行機武蔵製作所		高高度からの昼間「精密爆撃」
1944/12/3	中島飛行機武蔵製作所		
1944/12/27	中島飛行機武蔵製作所		
1945/1/9	中島飛行機武蔵製作所		
1945/2/17	中島飛行機武蔵製作所	日立航空機 立川発動機製作所	※海軍艦載機による爆撃
1945/4/2	中島飛行機武蔵製作所		低高度からの夜間「精密爆撃」
1945/4/4		立川飛行機	
1945/4/7	中島飛行機武蔵製作所		中高度からの爆撃
1945/4/12	中島飛行機武蔵製作所		
1945/4/24		日立航空機 立川発動機製作所	
1945/4/30		立川陸軍航空工廠	
1945/8/8	中島飛行機武蔵製作所		
※ 1945/7/29 中島飛行機武蔵製作所は模擬原爆の投下			

5. B29の爆撃までの飛行コース

一般に言われているように富士山を回ってきたわけではなかった。
伊豆半島や相模湾からはいつてきて、鎌倉などを通して多摩へ飛来した。



図：『多摩のあゆみ』第119号(2005年)「多摩の空襲」より

6. 焼夷弾投下の方法（8月2日八王子空襲の場合）

米軍の中小都市空襲作戦（4中都市[八王子、長岡、富山、水戸] & 川崎のコンビナート）

- ✓ 一般に言われるように、焼き払うエリアを決めてその外周から焼夷弾を落としていくのではなく、まず照準点を定める。八王子の場合は照準点は甲州街道の八日町交差点だった。
- ✓ B29の高度は4500～4900m。2日午前0時45分からM47焼夷弾、M46照明弾を投下。
- ✓ 主力部隊は0時48分からM17集束弾を投下。M17に110本ずつ収束されているM50焼夷弾、約67万個投下。午前2時29分に終了。犠牲者は約450人。

八王子空襲の特徴

- ✓ 前日か前々日に空襲予告のビラが撒かれた。
- ✓ 貫通力のきわめて強いM50焼夷弾が大量に投下された。
- ✓ 一回の空襲では全国で最大の規模。4都市合計で800機のB29。
- ✓ 3カ月後に米国戦略爆撃調査団による火災の調査が実施された。

焦げ跡のついた招き猫が甲州街道のきくやの表に長年飾られていたが、店が転居し、八王子の戦跡4カ所の内のひとつが無くなってしまった。

7. 小型機空襲（艦載機やP51ムスタングによる空襲）

- ✓ 小型機空襲とは、一人乗り、または二人乗りの海軍の艦載機や陸軍のP51ムスタングが機銃掃射、ロケット弾、爆弾を使って行う空襲のことを指す。
- ✓ 爆弾投下の様子はガンカメラによってカラー撮影されている。ガンカメラとは、機銃など発射する際に自動で撮影が始まるカメラのこと。
- ✓ 1945年2月16日と17日の艦載機による空襲が最初。目標は飛行場、軍需工場。
- ✓ 1945年4月7日にはP51がB29の護衛機として本土に初飛来。（P51は艦載機ではないが、混同して「カンサイキ空襲」と恐れられた。）

8. P51ムスタングによる銃撃空襲の典型 湯の花トンネル列車銃撃空襲

- ✓ 日時：1945年8月5日(日) 午後0時20分頃
- ✓ 場所：中央本線湯の花トンネル東側出入り口（現在の八王子ジャンクション下）
- ✓ 新宿駅10時10分発長野駅行き419列車が硫黄島から飛来したP51、4機の銃撃を受ける。死者52名 負傷者133名（列車乗客の氏名はわからないので、当時、新聞で呼びかけて42名が判明した。）
- ✓ 小型機による単独の列車への銃撃としては日本で最大の犠牲者を出した。

齊藤氏は2024年6月(9月?)にある大学の先生からメールをもらい、上海在住だったフクダ氏の娘さんが乗っていたことがわかった。2025年8月の慰霊の集いまでに慰霊碑に名前を追加する予定。

9. 多摩の空襲の犠牲者数

- ✓ 犠牲者数は約1500名
- ✓ 軍需工場とその周辺へは通常爆弾、八王子市街地へは焼夷弾
(八王子市街地の空襲は米軍の中小都市空襲計画による空襲)
- ✓ 3分の2が、1944/11/24の空襲開始～1945年4月の間
- ✓ 犠牲者数が多い順に、八王子、立川、武蔵野、東大和、保谷

10. まとめ

- ✓ B29による多摩地域への空襲被害が甚大だった要因は、
 - 1) 軍需工場があったこと、殊に航空機製造工場(軍需工場は昭和10年代に多摩地域に新設された。)
 - 2) 戦争末期に実施された米軍の中小都市空襲戦略の対象に八王子が含まれていたこと。
- ✓ 小型機による爆撃の目標は飛行機と軍需工場だったが、周辺家屋、鉄道、駅、人も対象となった。
- ✓ 犠牲者は約1500名の氏名が確認されている。

.....

いわゆる「空襲伝説」がある。

- 1) スパイが目標に関する情報を米軍に提供していた。
- 2) 近所に軍の施設があったから空襲目標に含まれた。
- 3) 久我山に15センチ砲が設置されたら、米軍は上空を飛行しなくなった。

13